

Q 定期健診の拡充（ピロリ菌検査の導入）を

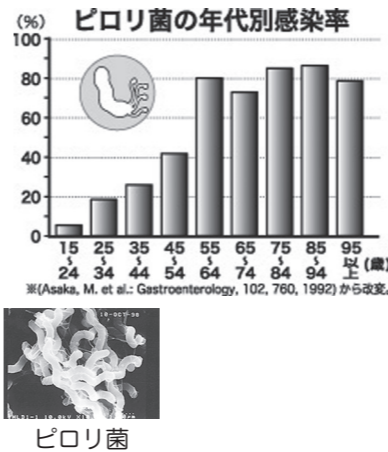
A 今年度健診より受検機会を提供

問 日本人の罹患率が高い胃がん。その主な原因とされるピロリ菌。検査でピロリ菌感染が見つかっても、除菌すれば胃がんのリスクは3〜5割減少する。定期健診にピロリ菌検査（ABC検査）の追加で、胃がん対策をすべきではないか。

答 平成28年度より、市の集団健診において全額自己負担のオプションでABC検査を行う。また、本年2月に国の指針が改正され、胃部内視鏡検査が導入されることになり、本市においても国の指針に基づき、現在準備をすすめている。

問 小中学校の健康診断項目に血液検査導入で習慣病予防すべきでは。

答 学校健康診断は、学校保健安全法に基づき実施。血液検査の実施には様々な課題があり困難。肥満度20%以上の子どもたちに対しては保育指導を行い、医療機関の受診を勧めている。今後も保健学習や保健指導を、より一層充実させていく。



― 保育の受け皿整備について―
問 病後児対応保育が整備され数年。病児対応型も必要と考える。拡充すべきではないか。
答 現在の施設を利用し、新たに病児保育の実施は難しい。病後児保育の改善（対象年齢の引き上げ等）に取り組んでいく。
問 団体調不良児対応型についてはどうか。
答 実施するには1施設年間430万円かかり困難。各保育園の対応を見守っていききたい。

中矢 寿子

Q 市立幼稚園の今後の在り方について

A 小学校との連携を深め教育活動を充実させていきたい

問 常盤幼稚園の今後について。

答 幼児期は、遊びを中心とした生活をとおして発達に必要な体験をしていくことから、今後も幼稚園と小学校の連携を深め、相互の教育活動を充実させていきたいと考えている。

― 公共施設の適正配置について―

問 老人福祉センターの今後について。

答 廃止の時期については、まだ決定していないが、深谷市公共施設適正配置計画では、平成34年度までに仙元荘、岡部荘、花園荘を廃止とし、比較的新しい福寿荘ともくせい館の2施設に機能を集約していくこととなっている。

問 利用者の中の交通弱者にとっての交通手段は。

答 コミュニティバス「くるりん」などの公共交通機関の利用をすすめていく。なお、現在、団体利用者は送迎バスを利用している。



常盤幼稚園

― 花園IC拠点整備プロジェクトについて―

問 深谷テラスについて。

答 A区画に応募した3事業者及びグループについては、キュービー株式会社優先協業者に決定した。また、B区画については未定である。

問 市長の発言の中で、議会に良識ある判断を求めたと言及しているが、住民運動をした皆さまは良識がないのか。
答 市議会全体への感謝の気持ちである。

加藤 利江

Q 「深谷ネギ」JGJ認証制度を取得すべきではないか

A 地域団体の合意がなされるよう協議を進めていく

問 「深谷ネギ」の規格の統一が図れば、地理的表示保護制度（GI）に登録できると思う。GIに登録して深谷ねぎのさらなるブランド化を図るべきではないか。

答 「深谷ねぎ」については、古くから利根川流域で栽培されていたねぎの総称であり、品種や定義がいまいである。また、市内には4農協5市場の出荷団体が存在し、出荷規格の違いなど規格統一には課題がある。認証取得については、行政ではなく地域団体が主体となって取り組むもので、市としては地域団体の合意がなされるよう協議を進めていく。

― ぶかや緑の回廊推進協議会について―

問 推進協議会への人的支援とは。

答 推進協議会は平成21年度に策定された「ぶかや緑の回廊基本構想」の実現に向けて各種事業を展開してきたが、平成27年12月24日をもって解散した。今後、産業振興計画を見直していく。また、花園IC拠点整備



深谷ネギ

馬場 茂

事業が進んでいく中で、地域の人々の盛り上がりや商工会などの新たな取り組みがあれば支援していく。
― 効果が見えない砂ぼこり対策―
問 今後の対策はどうするのか。
答 最も効果があるとされている緑肥作物の栽培も農家の作付けの関係から面積の拡大に繋がらず、緑肥種子の無料配布も中止された。根本的な解決策は見当たらない。農家の方へは収穫後の耕うん時期を遅らせること等お願いをしていく。

Q 全国学力学習状況調査の結果は、どうなっているのか

A 27年度は、小中ともに全国平均正答率を下回っている

問 平成27年度の結果では、47都道府県中、埼玉県は41位であり、深谷市の平均正答率は、ほとんどの項目で県平均、全国平均を下回る結果となっているが、学力向上に向けて、どのように取り組んでいくのか。
答 現在、教師の指導力向上、児童生徒の学習意欲の向上、家庭学習の充実に取り組んでいる。

問 7年連続で全国トップクラスの秋田県では、小学校入学時から家庭学習ノート徹底させ、児童生徒の家庭学習が習慣化され、学力向上に大きく貢献していると思うが、徹底していく考えはないか。
答 さらに、家庭との連携を深めて家庭学習の習慣化に努めていく。

― 6次産業化戦略の策定は―
問 国や県では、6次産業化に取り組む農業者などの発展段階に応じて支援を行うとして約20億円を予算計上しているが、市の戦略が策定されていないと補助率が下がる仕組みと

なっているのでは、早期に策定すべきだが、いつまでに策定するのか。
答 平成28年の秋頃には策定したい。

清水 健一

― 婚活支援事業の目的と目標は―
問 未婚化・晩婚化により少子化が進み、地域活力の低下が懸念される中、多くの幸せなカップル誕生を望むが、どのように進めていくのか。
答 国の調査では結婚しない理由として、出会いが無いとの回答が、約半数あることから、出会いの機会確保を目的として進めていく。

